

山崎 怜 教授著作目録

I. 著書

1. 「スミス財政思想の基礎視角——イギリス近代思想における国家の把握とアダム・スミス——」, 『財政学の課題』花戸龍蔵博士古稀記念論集(共著), 千倉書房, 1962年9月。
2. 「財政思想と財政政策——政策論の方法と思想史の必然性——」, 『経済政策の現代的課題』大泉行雄博士還暦記念論文集(共著), 勤草書房, 1963年12月。
3. 「明治期におけるスミス租税第1原則の解釈について——ひとつの試論——」, 『図書館学とその周辺』天野敬太郎先生古稀記念論文集(共著), 巖南堂書店, 1971年6月。
4. 「『国富論』体系と国家認識」, 『『国富論』の成立』経済学史学会編(共著), 岩波書店, 1976年8月。
5. 「自然的自由の体制と政府」[『国富論』第5篇], 『スミス国富論入門』(共著), 有斐閣新書, 1977年11月。
6. 『《安価な政府》の基本構成』(信山社), 1994年7月。
7. 『経済学と人間学』(昭和堂), 1994年11月。

II. 書物への寄稿

1. 「レッセ・フェール——経済学の生誕と市民社会像——」(杉原四郎・尾上久雄・置塩信雄編), 『経済像の歴史と現代』経済学基礎セミナー(3), 有斐閣, 1970年9月。
2. 「古典派経済学の導入過程 アダム・スミス——一つの序章——」, 『近代日本の経済思想』(杉原四郎編), ミネルヴァ書房, 1971年2月。
3. 「アダム・スミスと国家——『国富論』第5編にかんするノート——」, 『国富論研究』III(大河内一男編), 筑摩書房, 1972年12月。
4. 「18世紀末～19世紀初頭とは何か 市民化の分岐と自己否定」, 『経済思想の事典』(住谷一彦・伊東光晴編), 有斐閣選書, 1975年10月。
5. 「イギリス市民社会論」, 『経済思想の事典』(住谷一彦・伊東光晴編), 有斐閣選書, 1975年10月。
6. 「第Ⅲ部 第6章 産業革命と近代化」, 『社会思想史(1)近代』(平井俊彦・徳永恂編), 有斐閣, 1978年11月。
7. 「アダム・スミス「自然的自由の制度」と近代財政学の確立」, 『財政学を築いた人々』(大川政三・小林威編), ぎょうせい, 1983年4月。

8. 「リカードゥ 産業資本主義の発展と租税論の深化」、『財政学を築いた人々』(大川政三・小林威編), ぎょうせい, 1983年4月。
9. 「アダム・スミスの芸術論をめぐって」、『続 アダム・スミスの味』(アダム・スミスの会, 大河内一男編), 東京大学出版会, 1984年8月。
10. 「あるスミスの蔵書のこと」、『続 アダム・スミスの味』(アダム・スミスの会, 大河内一男編), 東京大学出版会, 1984年8月。

III. 論文

1. 「アダム・スミス『グラスゴウ大学講義』研究序説(I)——第2部「ポリースについて」に於ける問題意識と展開——」、『六甲台論集』第2巻第2号, 1955年12月。
2. 「アダム・スミス『グラスゴウ大学講義』研究序説(II)——スミスに於ける対象規定としての「生産」と「消費」——」、『六甲台論集』第2巻第3号, 1956年2月。
3. 「アダム・スミス『グラスゴウ大学講義』研究序説(III)——治政 police と経済学——」、『六甲台論集』第3巻第1号, 1956年6月。
4. 「アダム・スミス『グラスゴウ大学講義』研究序説(IV)——財政論の位置と内容——」、『六甲台論集』第3巻第3号, 1956年10月。
5. 「アダム・スミス『グラスゴウ大学講義』研究序説(V)——価格・剰余生産物および蓄積の理論——」、『六甲台論集』第4巻第2号, 1957年7月。
6. 「谷口博士のアダム・スミス論」、『香川大学経済論叢』第30巻第2・3号, 1957年7月。
7. 「初期のスミス(-)——W. ハスバツハの『グラスゴウ講義』論とそれに対する一批判——(1)」、『香川大学経済論叢』第31巻第5号, 1959年1月。
8. 「初期のスミス(-)——W. ハスバツハの『グラスゴウ講義』論とそれに対する一批判——(2)」、『香川大学経済論叢』第31巻第6号, 1959年3月。
9. 「アダム・スミスの財政論(-)——初期スミスの財政論——」, 香川大学経済論叢 第32巻第2号, 1959年7月。
10. 「アダム・スミスにおける租税の分類——税源との関連——」, 『香川大学経済論叢』第32巻第6号, 1960年3月。
11. 「ジョン・ミラー——R. L. ミークの所説によせて——」, 『香川大学経済論叢』第33巻第1号, 1960年5月。
12. 「一八世紀スコットランドの歴史家たち(-)——忘れられた歴史主義——」, 『香川大学経済論叢』第33巻第4号, 1960年11月。
13. 「一八世紀スコットランドの歴史家たち(=)——忘れられた歴史主義——」, 『香川大学

- 経済論叢』第33巻第6号，1961年3月。
14. 「租税思想におけるデイヴィッド・ヒューム」、『研究年報』1（1961年号），1961年9月。
 15. 「ミラー夫妻とその家系」、『研究年報』2（1962年号），1963年3月。
 16. 「ケイムズ卿の租税根拠論（I）」、『香川大学経済論叢』第37巻第2・3号，1964年8月。
 17. 「個別的租税利益説と全般的租税利益説」、『日本財政学会プレティン』（I），1965年10月。
 18. 「“安価な政府”をめぐる諸解釈について」、『香川大学経済論叢』第38巻第6号，1966年2月。
 19. 「アダム・スミスといわゆる“安価な政府”」、『研究年報』5（1965年号），1966年3月。
 20. 「明治・大正期におけるスミス租税第1原則解釈の諸類型——ひとつの接近」、『香川大学経済論叢』第39巻第2号，1966年6月。
 21. 「初期スミスにおけるスコットランド——アダム・スミスとスコットランド歴史学派・序説——」、『研究年報』6（1966年号），1967年3月。
 22. 「『安価な政府』の基本構成」、『日本財政学会プレティン』（II），1967年3月。
 23. 「昭和期におけるスミス租税第一原則の解釈について——ひとつの序章——」、『研究年報』7（1967年号），1968年3月。
 24. 「『安価な政府』の基本構成」、『香川大学経済論叢』第41巻第2号，1968年6月。[22の再掲]
 25. 「補説・個別的租税利益説と全般的租税利益説(上)」、『香川大学経済論叢』第41巻第3号，1968年8月。
 26. 「スミスにおける経済学体系と国家範疇」、『研究年報』8（1968年号），1969年3月。
 27. 「スコットランド歴史学派とその著作について」、『研究年報』9（1969年号），1970年3月。
 28. 「スミス租税第1原則の解釈とJ.S.ミルの影響——明治期を中心に——」、『香川大学経済論叢』第45巻第1号，1972年4月。
 29. 「ヒューム研究——その社会科学像をめぐって——」、『季刊 社会思想』第2巻第2号，1972年7月。
 30. 「いわゆる“安価な政府”の定式化について」、『香川大学経済論叢』第47巻第4・5・6号，1975年2月。
 31. 「いわゆる租税保険料説について」、『一橋論叢』第75巻第1号，1976年1月。

32. 「地方税務職員大学講座 財政・租税思想史 第1講 アダム・スミス」, 『税』Vol. 35, No. 3, 1980年3月。
33. 「私のアダム・スミス」, 『財政学研究』第19号, 1994年5月。

IV. 研究ノート

1. 「ジョン・ミラー『階級起源論』の序文について」, 『香川大学経済論叢』第33巻第2号, 1960年7月。
2. 「ガーショム・カーマイクルのこと——W. L. テイラーの記述を中心に——」, 『香川大学経済論叢』第33巻第5号, 1961年1月。
3. 「“安価な政府”の技術的定式化について」, 『香川大学経済論叢』第48巻第3・4号, 1975年10月。

V. 寄書

1. 「民主主義の弁証法」, 『未来』第10号, 1961年1月。
2. 「社会科学について」, 『四財文化』第32号, 1962年10月。
3. 「スミス研究とスコットランド歴史学派」, 『経済学史学会関西部会通信』12, 1963年7月。
4. 「ブリストリとバーミンガム暴動(上)——イギリス人とフランス革命 その一——」, 『積木』第6号, 1963年12月。
5. 「累進的租税構造の崩壊」, 『未来』第14号, 1963年12月。
6. 「オペラ『村の占者』と18世紀フランス思想」, 『積木』第7号, 1964年4月。
7. 「匿名氏著『シドニーの手紙』(エディンバラ, 1796年)について」, 『アダム・スミスの会会報』No. 14, 1967年4月。
8. 「「資本」論刊行百年によせる」, 『香川大学新聞』第120号, 1967年9月。
9. 「あるスミスの蔵書のこと」, 『アダム・スミスの会会報』No. 30, 1972年3月。
10. 「経済思想史講義聴講記 アメリカとカナダで経済思想史の5つの異なったタイプの講義を聞いた」, 『経済セミナー』No. 274, 1977年11月。
11. 「書誌の語るもの」, 『書誌索引展望』(日外アソシエーツ)第2巻第4号, 1978年7月。
12. 「〈安価な政府〉のことなど——スミス国家論によせて」, 『書齋の窓』(有斐閣)No. 277, 1978年9月。
13. 「スコットランド啓蒙のなかのスミス」, 『人類の知的遺産』(講談社)月報12, 1979年3月。

14. 「財政再建 幅広く討論を(要旨)」, 『日本経済新聞』, 1980年9月。
15. 「『小林昇経済学史著作集』をめぐって」(分担「ステュアート」), 『経済学史学会年報』第18号, 1980年11月。
16. 「「小さな政府」と租税制度」, 『税』(ぎょうせい) Vol. 36, No. 6, 1981年6月。
17. 「財政再建への課題」, 『法律のひろば』第34巻第10号, 1981年10月。
18. 「教科としての経済学史」(分担「イギリスその他の場合」), 『経済学史学会年報』第19号, 1981年11月。
19. 「いわゆる「安価な政府」の使用例についての調査」, 『公共サービスの経済分析』(S. 56/57 科研研究報告書 能勢哲也編), 1983年3月。
20. 「『近世租税思想史』の意味するもの」, 『島恭彦著作集』第2巻月報(有斐閣), 1983年8月。
21. 「経済学と人間学——アダム・スミスの場合——」, 『マンスリーアプローチ高2講座小論文』(福武書店)12月号, 1983年12月。
22. 「わがスコットランド」, 『香川大学経済論叢』第58巻第2号, 1985年9月。
23. 「経済学と人間学——Grand Science への志向」, 『第22回中国四国学生政治経済ゼミナール大会報告書』, 1982年12月。
24. 「「安価な政府」の思想と運動について(大会報告要旨)」, 『経済学史学会年報』第24号, 1986年11月。
25. 「アダム・スミスの美学」, 『経済学史学会年報』第28号, 1990年11月。

VI. 辞典・事典

1. 「エレン・ケイ」, 『社会科学大事典』第5巻(鹿島研究所出版会), 1968年12月。
2. 「ファーガソン」, 『社会科学大事典』第15巻(鹿島研究所出版会), 1970年8月。
3. 「道徳感情論」「道徳感学派」, 『グランド現代百科事典』第14巻(学習研究社), 1973年1月。
4. 「水田洋」, 『現代人物事典』(朝日新聞社編), 1977年3月。
5. 「安価な政府」, 『経済学辞典』第3版(岩波書店), 1979年6月, 1991年3月。
6. 「財政危機」「県財政」「国庫補助金」「受益者負担」, 『香川県大百科事典』(四国新聞社), 1984年4月。

VII. 紹介

1. 「C. ロビンズ『18世紀コモンウェルスマン』(1959年)におけるジョン・ミラー」, 『香

- 川大学経済論叢』第33巻第3号, 1960年9月。
2. 「『クリトウの手紙』について(-)」、『香川大学経済論叢』第34巻第5・6号, 1962年3月。
 3. 「『クリトウの手紙』について(二)」、『香川大学経済論叢』第35巻第1号, 1962年4月。
 4. 「『クリトウの手紙』について(三, 完)」、『香川大学経済論叢』第36巻第2号, 1963年6月。
 5. 「アダム・スミスの経済発展論 (I)」、『香川大学経済論叢』第36巻第5号, 1963年12月。
 6. 「グラスゴウ大学市民法教授 (1761—1801) としてのジョン・ミラー」、『香川大学経済論叢』第39巻第3号, 1966年8月。
 7. 「『諸国民の富』公刊二百年記念トロント会議について」、『香川大学経済論叢』第52巻第6号, 1980年2月。
 8. 「アンドレイ・アニーキンとふたつの著作について」、『香川大学経済論叢』第53巻第3号, 1981年1月。
 9. 「あるスミスの胸像について」、『香川大学経済論叢』第55巻第3・4号, 1983年1月。
 10. 「あるスミスの会について」、『香川大学経済論叢』第56巻第1号, 1983年6月。
 11. 「遠藤湘吉教授と“安価な政府”」、『香川大学経済論叢』第56巻第2号, 1983年9月。
 12. 「The Adam Smith Society について」、『香川大学経済論叢』第57巻第2号, 1984年9月。
 13. 「もうひとつのスミスの会について」、『香川大学経済論叢』第58巻第1号, 1985年6月。
 14. 「Homer Bews Vanderblue のこと——あるスミシアンの生涯——」、『香川大学経済論叢』第66巻第4号, 1994年3月。

VIII. 書評

1. 大河内一男ほか編集『社会主義講座』1・2巻 (河出書房), 『一橋新聞』第583号, 1956年8月。
2. 内田義彦編『古典経済学研究(上)』(未来社), 『六甲台論集』4巻3号, 1957年10月。
3. ジョン・ラスキン『ムネラ・プルウェルス』——政治経済要義論——(木村正身訳) (関書院), 『香川大学新聞』第65号, 1958年5月。
4. 広田司朗『ドイツ社会民主党と財政政策』, 『香川大学経済論叢』, 第35巻第4号, 1962年10月。
5. 森 七郎『古典派財政思想史』, 『香川大学経済論叢』第37巻第5号, 1964年12月。

6. 佐藤 進『近代税制の成立過程』、『香川大学経済論叢』第38巻第4号, 1965年10月。
7. ヒューム『経済論集』(田中敏弘訳)、『経済学論究』(関西学院大学経済学部)第22巻第3号, 1968年10月。
8. 小林 昇『私のなかのヴェトナム』、『未来』第28号, 1969年1月。
9. 水田 洋『アダム・スミス研究』(未来社)、『経済学史学会年報』第7号, 1969年11月。
10. 田中敏弘『社会科学者としてのヒューム』(未来社)、『日本読書新聞』第1609号, 1971年8月。
11. A. L. マクフィ『『社会における個人』を読んで』(舟橋喜恵・天羽康夫・水田洋訳)(ミネルヴァ書房)、『ミネルヴァ通信』第49号(ミネルヴァ書房), 1972年3月。
12. 杉原四郎『西欧経済学と近代日本』、『エコノミスト』第50巻第24号(毎日新聞社), 1972年6月。
13. D. ヒューム『宗教の自然史』(福鎌・斎藤訳, 法政大学出版局)、『日本読書新聞』, 第1668号, 1972年9月。
14. 杉原四郎『西欧経済学と近代日本』(未来社刊, 1972年)、『経済学史学会年報』第10号, 1972年11月。
15. マンデル, ドップほか『国際シンポジウム——70年代の資本主義』(中村, 永井, 渡会訳)、『エコノミスト』第51巻第11号(毎日新聞社), 1973年3月。
16. 小林 昇『国富論体系の成立』(未来社)、『日本読書新聞』第1713号, 1973年7月。
17. 杉原四郎『イギリス経済思想史——J. S. ミルを中心として——』(未来社)、『日本読書新聞』第1744号, 1974年2月。
18. アダム・スミスの会編『本邦アダム・スミス文献——目録および解題——』(増訂版)、『香川大学経済論叢』第52巻第1・2号, 1979年6月。
19. 平田清明編著『社会思想史』(青林書院新社)、『週間 読書人』1305号, 1979年11月。
20. 島 恭彦・池上 惇編『財政民主主義の理論と思想』(青木書店, 1979年12月刊)、『財政学研究』第4号, 1980年10月。
21. 杉原四郎『日本経済思想史論集』、『甲南経済学論集』第21巻第4号(134号), 1981年3月。
22. 海老沢 敏『ルソーと音楽』、『香川大学経済論叢』第56巻第2号, 1982年9月。
23. 重森 暁編『日本財政論』(青木書店, 1983年)、『財政学研究』第10号, 1985年5月。
24. 宮本憲一編『地方財政の国際比較』(勁草書房)、『赤旗』(談話室)第12999号, 1986年11月。
25. 遠藤湘吉『市民の財政学』(東大新書)、『香川大学新聞』。[号数, 不詳]

IX. 文献紹介

1. 篠原 久『アダム・スミスと常識哲学——スコットランド啓蒙思想の研究——』、『経済学史学会年報』第25号, 1987年11月。
2. 杉原四郎『西欧経済思想史研究』(同文館, 1990年), 『経済学史学会年報』第29号, 1991年10月。

X. 新刊紹介

1. 松川七郎『ウィリアム・ベティ 上巻』(一橋大学経済研究叢書10)(岩波書店, 昭和33年9月), 『香川大学経済論叢』第31巻第4号, 1958年11月。
2. 高島善哉・水田 洋・平田清明『社会思想史概論』, 『香川大学経済論叢』第35巻第5号, 1962年12月。
3. アダム・スミスの会, 大河内一男編『アダム・スミスの味』, 『香川大学経済論叢』第38巻第5号, 1965年12月。

XI. 資料

1. 「クリストファ・ワイヴィルへのジョン・ミラーの手紙」, 『香川大学経済論叢』第40巻第2号, 1967年6月。
2. W. ケネディ「1640年から1799年にいたるイングランドの租税——その政策と政策思想にかんする1試論(1913年)」(上), 『香川大学経済論叢』第40巻第5号, 1967年12月。
3. W. ケネディ「1640年から1799年にいたるイングランドの租税——その政策と政策思想にかんする1試論(1913年)」(中), 『香川大学経済論叢』第40巻第6号, 1968年2月。
4. 「あるスミスの蔵書について」, 『香川大学経済論叢』第44巻第1号, 1971年4月。
5. 「旧師業績拾遺」, 『香川大学経済論叢』第46巻第1号, 1973年4月。
6. 「旧師業績拾遺(つづき)」, 『香川大学経済論叢』第46巻第2・3号, 1973年8月。
7. 「使用事例からみた“安価な政府”」, 『香川大学経済論叢』第57巻第1号, 1984年6月。
8. 「ウィリアム・トムプソンの1通の手紙について」, 『香川大学経済論叢』第66巻第3号, 1993年12月。

XII. 調査

1. 「四国地方財政の構造」, 『経研資料』第246号(大阪府立商工経済研究所), 1961年3月。

XIII. 報告

1. 「経済学史部門（講評）」、『第4回西日本学生経済学研究会大会報告書』, 1959年2月。
2. 「未来会第8回総会報告記」, 『未来会通信』第5号, 1963年4月。
3. 「月例会報告」, 『香川ステレオ同好会月報』第48号, 1974年5月。
4. 「月例会報告」, 『香川ステレオ同好会月報』第52号, 1974年12月。
5. 「月例会報告」, 『香川ステレオ同好会月報』第53号, 1975年1月。
6. 「国際会議 第10回国際政治学会スミス部会」, 『経済学史学会年報』第15号, 1977年11月。
7. 「国際学会 ヒューム死後二百年記念マッギル会議」, 『経済学史学会年報』第15号, 1977年11月。
8. 「国際コロキウム 『国富論』二百年ハレ会議」, 『経済学史学会年報』第15号, 1977年11月。
9. 「国際学会 国際財政学会 (IIPF) 第32回大会」, 『経済学史学会年報』第15号, 1977年11月。
10. 「日本学術会議の動きについて」, 『経済学史学会ニュース』第1号, 1992年7月。
11. 「日本学術会議の動き」, 『経済学史学会ニュース』第2号, 1993年7月。

XIV. 学界消息

1. 「Henry Hamilton 教授の急逝をいたむ」, 『香川大学経済論叢』第37巻第4号, 1964年10月。

XV. 随想

1. 「正しい科学の創造をめざして」, 『香川大学新聞』第50号, 1955年12月。
2. 「くにたち附近」, 『未来』第1号, 1956年8月。
3. 「自然と人間と社会について——最近感銘をうけた二つの著作——」, 『未来』第2号, 1957年1月。
4. 「ワルター・ギーゼキングを悼む」, 『未来』第2号, 1957年1月。
5. 「『居酒屋』をみて」, 『未来』第2号, 1957年1月。
6. 「音楽と社会と経済の現代および未来——さいきん読んだ三つの著作——」, 『未来』第3号, 1957年。
7. 「二つのソヴェト映画」, 『未来』第3号, 1957年。
8. 「さいごの東京から」, 『未来』第4号, 1958年1月。

9. 「『真昼の暴動』と『宿命』」, 『香川大学新聞』第63号, 1958年1月。
10. 「ベルリン・フィルハーモニーをきく」, 『未来』第4号, 1958年1月。
11. 「わがはるかなる Quelle (その一) ——ほくの音楽雑記——」, 『未来』第4号, 1958年1月。
12. 「思い出すままに」, 『薫風』(神戸大学内伊藤薫追悼録編集委員会), 1958年5月。
13. 「香川労音をよりすばらしいものに」, 『みゆじっく香川』第41号, 1958年6月。
14. 「美と悲しみと——映画『檜山節考』から——」, 『白藤』第38号, 1958年7月。
15. 「レニングラード・フィルをきく」, 『未来』第5号, 1958年8月。
16. 「わがはるかなる Quelle (その二) ——ほくの音楽雑記——」, 『未来』第5号, 1958年8月。
17. 「夕日」, 『朝日新聞』(香川版), 1958年10月。
18. 「わたくしの野望——序章——」, 『未来』第6号, 1959年1月。
19. 「ベツシュさんの心」, 『みゆじっく香川』第50号, 1959年4月。
20. 「わがはるかなる Quelle (その三) ——ほくの音楽雑記——」, 『未来』第7号, 1959年9月。
21. 「未来会の未来ということ」, 『未来』第8号, 1959年12月。
22. 「チェコ・フィルハーモニーとわれわれ」, 『未来』第8号, 1959年12月。
23. 「東京コラリアーズ」, 『みゆじっく香川』第63号, 1959年12月。
24. 「チェコ・トリオを聴いて」, 『みゆじっく香川』第70号, 1960年6月。
25. 「昭和20年8月15日——その前後」, 『未来』第9号, 1960年7月。
26. 「私がすすめる本——人間とは何かを究めよう」, 『香川大学新聞』第84号, 1961年4月。
27. 「映画『世界の独裁者たち』を見て」, 『四国新聞』, 1961年12月。
28. 「古びたノートより」, 『未来』第12号, 1962年1月。
29. 「民族と芸術——わらび座をみて——」, 『みゆじっく香川』第89号, 1962年2月。
30. 「めとみみとところと——ふたりのN君に——」, 『未来』第13号, 1962年7月。
31. 「銀杏の葉は散らない」, 『未来』第14号, 1963年12月。
32. 「『未来』姉妹誌のこと」, 『未来』第14号, 1963年12月。
33. 「ある夜の新刊書店にて」, 『積木』第8号, 1964年8月。
34. 「モーツァルト」, 『積木』第8号, 1964年8月。
35. 「大学生活とサークル活動」, 『グループ・リーダー・トレーニング報告書』(第1回, 昭和40年度)(香川大学学生部学生課), 1965年8月。
36. 「表紙についてのイメージ」, 『積木』第9号, 1966年3月。

37. 「文科系サークル・リーダーシップトレーニングの感想」、『学園の志おり』第10号, 1967年12月。
38. 「学生と学問」、『第20回大学祭パンフレット』, 1968年5月。
39. 「わらび座への期待」、『わらび座をみる会ニュース』第1号, 1968年12月。
40. 「根っ子のこころ」、『わらび座高松公演プログラム』, 1969年2月。
41. 「意義ある大学生生活をめざして」、『学園の志おり』第12号, 1969年3月。
42. 「香川大学と大学問題——その序説の1——」、『未来会通信』第24号, 1969年4月。
43. 「ピンポン」、『スマッシュ』創刊号, 香川大学卓球部, 1969年6月。
44. 「香川大学における公私の関係について」、『香川大学時事論集』(I), 1969年9月。
45. 「きびしくもたのしかったセミナーの夜のこと——民話の世界(沖繩と讃岐)の報告など——」、『未来会通信』第25号, 1969年11月。
46. 「紫煙の日々に——光枝完太郎への手紙——」、『未来会通信』第25号, 1969年11月。
47. 「私のすすめる十冊の書」、『香川大学新聞』第132号, 1970年4月。
48. 「浄土氏に反論——グスコブドリの伝記——」、『香川労演』第133号, 1970年4月。
49. 「考えよう 青年の生き方(要旨)」、『第5回わかき寮祭パンフ』, 1970年5月。
50. 「あるゼミ旅行の日に」、『大阪又信会報』第8号, 1971年5月。
51. 「研究労働員ということ——「者」から「員」へ——」、『組合ニュース』1971年度(香川大学経済学部教員組合), 1972年3月。
52. 「アダム・スミスと大学」、『学園の志おり』第16号, 1973年3月。
53. 「よみごたえある字野・内田対談」、『民芸の仲間』第217号, 1973年3月。
54. 「遠い夏の日々」, 月刊『香川』, 第26巻第9号, 1973年9月。
55. 「無言の教え」、『経済学の研究と教育の五十年』(堀経夫博士喜壽記念事業委員会編, 世界保健通信社), 1973年11月。
56. 「交友会館の起工式について」、『又信』第53号, 1973年11月。
57. 「又信会の現状と問題点——私的な報告——」、『又信』第53号, 1973年11月。
58. 「〔ゼミナール通信〕旧大泉ゼミナールの諸兄に」、『又信』第53号, 1973年11月。
59. 「倉敷正義氏のご逝去を悼む」、『又信』第53号, 1973年11月。
60. 「〔ゼミナール通信〕テーマのことなど」、『又信』第53号, 1973年11月。
61. 「光と影」、『オリーブの波間に』創刊号, 1974年3月。
62. 「物と心の調和を——香川地方婦人会議——」、『毎日新聞』(香川版), 1974年4月。
63. 「身辺雑記」、『大阪又信会報』第11号, 1974年5月。
64. 「交友会館の竣工式について」、『又信』第54号, 1974年11月。

65. 「幻視のなかのベーム」、『香川ステレオ同好会月報』第55号, 1975年 5月。
66. 「一枚のレコード」、『香川ステレオ同好会月報』第57号, 1975年 7月。
67. 「宮本憲一氏のこと」、『高松市市民大学講座パンフレット』, 1975年 7月。
68. 「「逍遙歌」考」、『又信』第55号, 1975年12月。
69. 「ヨーロッパ楽信(1)——二つの音楽堂——」、『香川ステレオ同好会月報』第60号, 1976年 1月。
70. 「東の国の町ハレでのごと」、『オリーブの波間に』第 3号, 1976年 4月。
71. 「まえおきとひとつのごと」、『学園の志おり』第29号, 1977年10月。
72. 「ブッヘンワルト」、『未来』第15号, 1977年11月。
73. 「キャンパスネイサン」、『小林昇経済学史著作集』月報 5 (未来社), 1977年12月。
74. 「「逍遙歌」考 (つづき)」、『又信』第57号, 1977年12月。
75. 「路傍の子供たち」、『大阪又信会報』第15号, 1978年 6月。
76. 「アイノーラ」、『オリーブの波間に』第 5号, 1978年10月。
77. 「「逍遙歌」余聞」、『又信』第58号, 1978年12月。
78. 「片岡是雄のごと」、『海』第 1号, 1979年 2月。
79. 「ライブツィヒタ景(-)」、『オリーブの波間に』第 6号, 1979年 6月。
80. 「一枚の絵はがき」、『研究遍歴』(宮田喜代蔵先生追悼論集 門下生編), 1979年 7月。
81. 「随想 3編——音楽への想い, 救援者としての文学, この喧噪について——」、『海』第 2号, 1979年 7月。
82. 「逍遙歌異聞」、『又信』第59号, 1979年11月。
83. 「大泉先生の絶筆について」、『又信』第59号, 1979年11月。
84. 「本を読む」、『学園の志おり』第36号, 1980年 5月。
85. 「宮田喜代蔵先生のごと」、『海』第 3号, 1980年 7月。
86. 「白夜の国」、『学園の志おり』第37号, 1980年 9月。
87. 「Don't you cry, please?」、『又信』第60号, 1980年12月。
88. 「ロンドンの又信会」、『又信』第60号, 1980年12月。
89. 「イギリスという国」、『大阪又信会報』第18号, 1981年 6月。
90. 「兒玉洋一先生を偲んで」、『ニュース又信』第 8号, 1981年 7月。
91. 「『香川大学三十年史』のごとなど」、『又信東京』第21号, 1981年10月。
92. 「逍遙歌のごと (つづき)」、『又信』第61号, 1982年 1月。
93. 「『香川大学三十年史』の発刊によせて」、『又信』第61号, 1982年 1月。
94. 「ゼミナル通信」、『又信』第61号, 1982年 1月。

95. 「学内風景(1), (2)」, 『又信』第61号, 1982年1月。
96. 「宮脇町一六二番地」, 『ニュース又信』第9号, 1982年7月。
97. 「ある日の大泉先生」, 『又信東京』第22号, 1982年11月。
98. 「ふたりのスコットランド人」, 『又信』第62号, 1982年12月。
99. 「柳河 (やながわ)」, 『オリーブの波間に』1982年度号, 1983年2月。
100. 「大泉先生の十七面相」, 『大阪又信会報』第20号, 1983年6月。
101. 「岩井茂先生, ご蔵書を寄付される」, 『ニュース又信』第10号, 1983年7月。
102. 「移りゆく日日のなかで」, 『オリーブの波間に』1983年度号, 1983年10月。
103. 「財布」, 『又信』第63号, 1983年12月。
104. 「レーマン先生のこと」, 『大阪又信会報』第21号, 1984年6月。
105. 「雪の中の木之本」, 『海』第4号, 1984年7月。
106. 「夕暮の想い」, 『海』第4号, 1984年7月。
107. 「挽歌について」, 『又信東京』第23号, 1984年11月。
108. 「新幹線にて」, 『又信』第64号, 1984年12月。
109. 「エッセイストとしての大泉先生」, 『大阪又信会報』第22号, 1985年6月。
110. 「ライブツイヒタ景仁」, 『海』第6号, 1985年9月。
111. 「演奏家のサイン(初出は同一題にて, 四国新聞, 32032号, 昭58年5月9日に掲載)」, 『月曜随想』II (四国新聞社), 1985年9月。
112. 「エッセイストとしての大泉先生(つづき)」, 『大阪又信会報』第23号, 1986年6月。
113. 「思い出の絵はがき」, 『ニュース又信』第13号, 1986年7月。
114. 「カーコーディの夜」, 『又信』第66号, 1986年11月。
115. 「『高松住宅明細地図』について」, 『又信』第66号, 1986年11月。
116. 「岩井文庫について」, 『又信』第66号, 1986年11月。
117. 「思い出すことども」, 『又信東京』第25号, 1986年11月。
118. 「カーコーディの人々」, 『大阪又信会報』第24号, 1987年6月。
119. 「日記」, 『オリーブの波間に』1987年度号, 1987年7月。
120. 「デニス・ブレインの墓」, 『又信』第67号, 1987年11月。
121. 「ハイ・テーブル」, 『又信東京』第26号, 1987年11月。
122. 「「学生であること」への想い」, 『学園の志おり』第70号, 1988年6月。
123. 「新入生にすすめる本」, 香川大学生活協同組合書籍部, 1988年7月。
124. 「瀬戸内海を歩く」, 『オリーブの波間に』1988年度号, 1988年7月。
125. 「自分の人生は自分が拓く」, 『香川大学入学記念アルバム』(1988), 1988年7月。

126. 「学部長からのメッセージ」, 『香川大学案内』1989年度版, 1988年。
127. 「パブリックとプライベートについて」, 『大阪又信会報』第25号, 1988年10月。
128. 「ナインウェルズ」, 『又信東京』第27号, 1988年11月。
129. 「好む仕事と好まない仕事」, 『又信』第68号, 1988年11月。
130. 「豊後竹田にて」, 『オリーブの波間に』1989年度号, 1989年7月。
131. 「生きることを学ぶ」, 『Kagawa University Super-Fresh Booklets, 1989』(香川大学生生活協同組合発行), 1989年7月。
132. 「ジョン・ミラーの墓を訪ねて」, 『大阪又信会報』第26号, 1989年10月。
133. 「冬のハーヴァード」, 『又信東京』第28号, 1989年11月。
134. 「的確性について」, 『内田義彦著作集』月報10(岩波書店), 1989年11月。
135. 「手作りゼミについて」, 『Introduction to Seminars '89』, 1989年12月。
136. 「[ゼミナール通信] OB 会のことなど」, 『又信』第69号, 1989年12月。
137. 「経済学部からの報告」, 『又信』第69号, 1989年12月。
138. 「デンノッホ」, 『追悼・内田義彦』(藤原書店), 1990年3月。
139. 「デンノッホ」, 『機』第2号(藤原書店), 1990年6月。
140. 「目的異質性の法則について」, 『オリーブの波間に』1990年度号, 1990年7月。
141. 「なにを生甲斐とするかが問題」, 『四国新聞』1990年8月1日。
142. 「ゼミナールについて」, 『オリーブの波間に』特別号, 1990年9月。
143. 「溪鬼荘宿坊」, 『海』第14号, 1990年9月。
144. 「<子午線の祀り>について」, 『海』第14号, 1990年9月。
145. 「エッセイストとしての大泉先生(つづきの二)」, 『大阪又信会報』第27号, 1990年10月。
146. 「『舞台に夢よせて』によせる」, 『まくあい』第269号, 1990年10月。
147. 「ゴッホについて」, 『又信東京』第29号, 1990年11月。
148. 「在外研究と墓地探訪」, 『又信』第70号, 1990年12月。
149. 「峠に立ちて」, 『香川大学法学部10年誌』1991年3月。
150. 「自己発見ということ」, 『学園の志おり』第84号, 1991年6月。
151. 「わがゼミと中四ゼミ」, 『オリーブの波間に』1991年度号, 1991年7月。
152. 「エッセイストとしての大泉先生(つづきの三)」, 『大阪又信会報』第28号, 1991年10月。
153. 「『隈本繁吉先生の思い出』について」, 『又信東京』第30号, 1991年11月。
154. 「『隈本繁吉先生の思い出』編集をめぐって」, 『又信』第71号, 1991年12月。

155. 「本義と末義」、『日本学術会議中国・四国地区ニュース』第25号, 1992年3月。
156. 「就職活動について」、『オリーブの波間に』1992年度号, 1992年7月。
157. 「村山知義の児童向けの仕事について」、『オリーブの波間に』1992年度号, 1992年7月。
158. 「隈本繁吉先生の履歴について」、『海』第18号, 1992年8月。
159. 「レコードの話から」、『大阪又信会報』第29号, 1992年10月。
160. 「よろこびの代価」、『又信東京』第31号, 1992年11月。
161. 「『隈本繁吉先生の思い出』その後」、『又信』第72号, 1992年12月。
162. 「〔ゼミナール通信〕お礼と報告」、『又信』第72号, 1992年12月。
163. 「図書館序説」、『としょかんだより』第15号, 1993年1月。
164. 「国際交流事業後援会募金状況について」、『ニュース又信』第20号, 1993年7月。
165. 「新しく芽ぶきたい」、『積木通信』第1号, 1993年8月。
166. 「隈本繁吉先生の文章についての拾遺」、『大阪又信会報』第30号, 1993年10月。
167. 「ある詩集から」、『又信東京』第32号, 1993年11月。
168. 「久川武三先生を憶う」、『又信』第73号, 1993年12月。
169. 「ゼミナールの終りに当って」、『オリーブの波間に』1993年度号, 1994年2月。
170. 「ふたりの学長先生」、『学園の志おり』第95号, 1994年3月。
171. 「停年に際して」、『ニュース又信』第21号, 1994年7月。
172. 「合唱団定期演奏会によせて」、『香川大学新聞』第76号, 年月不祥。

XVI. 翻訳

1. 『アダム・スミス哲学論文集』(共訳)(名古屋大学出版会), 1993年4月。

XVII. 編集協力

1. "Collected Works of John Stuart Mill", vol. XXXII, Additional Letters, Toronto University Press, 1991.

XVIII. 座談会

1. 「アダム・スミスにおける「人間」(大塚久雄, 小林昇, 大河内一男, 山崎)」、『国富論研究』I, 大河内一男編(筑摩書房), 1972年10月。
2. 「地方における人材事情」(河合親, 高戸紀幸, 道祖土武, 佐久間健一, 山崎)、『人事院月報』No. 483, 大蔵省印刷局, 1990年11月。

XIX. 村山箒子関係

1. 「ある童話作家——村山箒子のこと——」, 『讃岐文学』第19号, 1971年7月(再掲, 『日本児童文学』第17巻第11号, 1971年11月)。
2. 「ひかれる“現代性”——村山箒子を研究する——」, 『朝日新聞』(香川版), 1971年12月。
3. 「村山童話のこころ」, 『キンダーおはなしえほん』9月号付録「つばめのおうち おかあさまのしおり」, 1972年9月。
4. 「村山箒子の晩年の手紙について」, 『オーリーブの波間に』第2号, 1975年3月。
5. 「村山箒子の生涯」, 『又信』第57号, 1977年12月。
6. 「若き日の岡内箒子」, 『あゆみ』第57号, 1978年1月。
7. 「幼児期の岡内箒子と童話一篇」, 『あゆみ』第58号, 1978年4月。
8. 「村山箒子集」, 『日本児童文学大系』第26巻, 編集, ほるぷ出版, 1978年11月。[解説, 年譜, 参考文献]
9. 「村山箒子の遺言」, 『海』第2号, 1979年7月。
10. 「1986年と箒子研究」, 『オーリーブの波間に』1986年度号, 1987年2月。
11. 「村山箒子作品目録——初出を中心に」, 『海』第11号, 1987年4月。
12. 「村山箒子のこと——風土と文学——」, 『支部つうしん』第100号(JSA 香川支部), 1990年1月。
13. 「村山箒子についての手紙」, 『語部』第6号, 1990年9月。
14. 「村山箒子(1903—1946)をめぐって」, 『一般教育研究』(香川大学一般教育部)第42号, 1992年10月。
15. 「続・村山箒子(1903—1946)をめぐって」, 『一般教育研究』(香川大学一般教育部)第43号, 1993年3月。
16. 「〈聞きがき〉村山箒子(第1回)」, 『積木通信』第2号, 1993年9月。
17. 「村山箒子」, 『日本児童文学大事典』第2巻(大日本図書), 1993年10月。
18. 「〈聞きがき〉村山箒子(第2回)」, 『積木通信』第3号, 1993年10月。
19. 「村山箒子研究上の若干の資料について」, 『一般教育研究』(香川大学一般教育部)第44号, 1993年10月。
20. 「〈聞きがき〉村山箒子(第3回)」, 『積木通信』第4号, 1993年11月。
21. 「〈聞きがき〉村山箒子(第4回)」, 『積木通信』第5号, 1993年12月。
22. 「〈聞きがき〉村山箒子(第5回)」, 『積木通信』第6号, 1994年1月。
23. 「〈聞きがき〉村山箒子(第6回)」, 『積木通信』第7号, 1994年2月。

24. 「〈聞きがき〉村山籌子（第7回）」、『積木通信』第8号，1994年3月。
25. 「〈聞きがき〉村山籌子——県立高松高女時代の岡内籌子——」、『一般教育研究』（香川大学一般教育部）第45号，1994年3月。
26. 「〈聞きがき〉村山籌子（第8回）」、『積木通信』第9号，1994年4月。
27. 「〈聞きがき〉村山籌子（第9回）」、『積木通信』第10号，1994年5月。
28. 「菊池寛と村山籌子」、『積木通信』第11号，1994年6月。
29. 「〈聞きがき〉村山籌子（第10回）」、『積木通信』第12号，1994年7月。
30. 「〈聞きがき〉村山籌子（第11回）」、『積木通信』第13号，1994年8月。
31. 「〈聞きがき〉村山籌子（第12回）」、『積木通信』第14号，1994年9月。
32. 「〈聞きがき〉村山籌子（第13回）」、『積木通信』第15号，1994年10月。
33. 「〈聞きがき〉村山籌子——「最晩年」の鎌倉時代（疎開時代）——」、『一般教育研究』（香川大学一般教育部），第46号，1994年10月。

XX. 劇寸評

1. 「オッペケペ」、『香川労演』第93号，1966年4月。
2. 「分裂気質」、『香川労演』第134号，1970年7月。
3. 「若い座標」、『香川労演』第143号，1971年7月。
4. 「裸の大將放浪記」、『まくあい』第237号，1986年1月。
5. 「心——わが愛」、『まくあい』第243号，1987年1月。
6. 「解脱衣楓累」、『まくあい』第252号，1988年5月。
7. 「頭痛肩こり樋口一葉」、『まくあい』第253号，1988年6月。
8. 「エセルとジュリアス」、『まくあい』第254号，1988年9月。
9. 「三婆」、『まくあい』第255号，1988年11月。
10. 「ハーベイ」、『まくあい』第258号，1989年3月。
11. 「煮えきらない幽霊たち」、『まくあい』第259号，1989年5月。
12. 「唐来参和」、『まくあい』第262号，1989年11月。
13. 「イルクーツク物語」、『まくあい』第264号，1990年2月。
14. 「女の一生」、『まくあい』第269号，1990年10月。
15. 「荷車の歌」、『まくあい』第272号，1991年1月。
16. 「遊・遊・家族」、『まくあい』第273号，1991年3月。
17. 「文七元結 おもん藤太」、『まくあい』第274号，1991年6月。
18. 「さぶ」、『まくあい』第280号，1992年3月。

19. 「がめつい奴」、『まくあい』第281号, 1992年5月。
20. 「遺産らぶそでい」、『まくあい』第282号, 1992年7月。
21. 「セールスマンの死」、『まくあい』第285号, 1992年11月。
22. 「カルメン」、『まくあい』第286号, 1993年1月。
23. 「ロミオとジュリエット」、『まくあい』第290号, 1993年9月。

XXI. 編者

1. 『隈本繁吉先生の思い出』(又信会), 1991年9月。